

〈様式2〉

## 令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

鯖江市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	惜陰	小学校	運動量の確保、運動の楽しさの実感を目指した授業展開や、体育委員会の取り組みの充実などを図ったことから、学校評価において、1学期、2学期ともに95%以上の児童が「体力作りに一生懸命に取り組んでいる」と回答した。
2	進徳	小学校	校内器械運動発表会の最後に体育主任から、6年生が行ってきた計画の形や、がんばってきた様子を全校児童に伝え、「演技が美しかった」「僕もあんな技ができるようになりたい」という感想が多く聞かれた。特に5年生からは「練習期間が5時間という中で、自分たちで考えて計画したのがすごい」「来年は自分たちががんばりたい」と意欲的な声が上がった。また、演技後の6年生は達成感を味わうことができていた。
3	鯖江東	小学校	教具を工夫したり教具の数を増やしたりすることが、いつでも興味をもって運動ができる環境となり、一人一人の運動時間の確保につながった。 学年で同じ進め方、同じ学習カードを使うことで、全児童に充実した学習を提供できた。 ICTを活用することで、児童が機器を使いながら、主体的に学ぶ様子が見られた。
4	神明	小学校	パワフルカード(マラソカード)の活用について、体育委員会で呼びかけたことで、自ら運動に親しむ児童(特に低学年)が増えた。 鯖江市連合体育大会の8の字回旋跳びでは、5・6年生12チーム中、8チームが入賞(10位以内)した。5年生は全チームが入賞した。
5	鳥羽	小学校	体力テストの持久力と反復横跳びの結果を見ると、66.7%が県平均よりも上回る結果が見られた。これは、4月から業間運動で取り組んできた運動の成果と言える。そのため、今後はよいところは伸ばしつつ、結果の低い運動を改善していきたい。
6	中河	小学校	年間通して準備運動の中にグーパー体操や柔軟運動を行ってきたことにより、どの学年も体力テストの「握力」と「長座体前屈」の数値が良かった。また、学校での体育的行事前に業間活動を取り入れることで、児童一人ひとりが意欲的に運動を行うことができた。マラソン大会前に持久走を行ったり、なわとび大会前になわとび活動を行ったりするなどして体力アップに取り組むことができた。さらに、業間のなわとび活動では、個人で級に挑戦する単なわ活動と縦割り班ごとに行う8の字とび活動の2種類を実施した。縦割り班活動の充実も図ることができた。
7	片上	小学校	体力テストの結果では、特に5・6年生において20mシャトルランの数値が昨年度比較で向上しており、県、市平均と比較しても高い数値となっている。業間体育での取り組みや、そこでの成果を確認できる行事(時間走記録会等)を継続したり、持久走カードで自分の頑張った走った成果を記録として見えるようにしたりしてきた結果と考えられる。今年度、後期の児童対象の学校評価アンケートでは、95%の児童が「体育の授業や休み時間に楽しく運動することができた」と回答しており、前期よりもわずかであるが高割合を示している。これは、ユニバーサルスポーツ大会でのポッチャやモルック等、運動の得意な児童だけでなく、苦手をもった児童でも活躍したり、楽しめたりする活動を取り入れている結果だと思われる。
8	立待	小学校	全校で業間運動に継続して取り組んだこと、マラソン大会や器械運動発表会を実施したことで、めあてをもって意欲的に運動に取り組むことができていた。マラソン大会では試走でのタイムや順位を目標にして本番に取り組む姿がみられたり、本番には保護者も観戦することができるようになったことで、家庭においても体力向上への関心を高めることにつながることができた。また、学年に応じて各クラスに児童が扱いやすいボールを配布し、休み時間に使用できる環境を整えたことで、昨年度より積極的にボールを投げて遊ぶ児童も多くみられた。継続して環境を整えていくことで投力の向上につなげていきたい。

9	吉川	小学校	<p>体育に関する情報を定期的に発信することで、体育の授業づくりに不安をもっている教員の負担感を軽減することができた。</p> <p>学習カードやICT機器を活用したり、グループ活動を取り入れたりすることで、互いにアドバイスし合う場面が多く見られた。後期の学校評価アンケートにおいて、約9割の児童が「めあてをもって活動できた」と回答した。</p> <p>ボール遊びや鉄棒遊び、短なわなど、全体的に運動遊びに取り組む児童が多く見られた。特にドッジボールで遊ぶ児童が多く、全体的に投力の高まりが見られた。体力テストのソフトボール投げにおいては、市や県の平均を上回った。</p> <p>スポーツ傷害に関する出前講座を行ったことで、傷害予防への意識が高まり、準備運動や補強運動への取り組みが一層良くなった。</p> <p>養護教諭と連携して健康管理への意識を高めてきたことで、水分補給やマスク着用などの自分の健康を守るための行動が習慣づいた。</p>
10	豊	小学校	<p>昨年度の体力テストにおいて課題のあった20mシャトルランと立ち幅跳びについては男子は県・市ともに上回った(女子も半分の学年で)。</p> <p>学校評価において98%以上の児童が「体力づくりでは、めあての達成をめざして一生懸命取り組んでいる」と回答した。</p>
11	北中山	小学校	<p>毎週火・木曜日の業間に持久走やなわとび運動を行った。また、体育の授業の最初に持久跳びの時間を設け、学年目標を設定することによって児童の意欲の向上を図った。その結果、持久跳びの学年目標を達成した人数は全校児童115人中96人であった。</p>
12	河和田	小学校	<p>校内マラソン記録会では、めあてをもって練習に取り組むことで目標タイムを決めて本番に臨む児童が多かった。その結果、練習の時よりもタイムを伸ばした児童が増えた。</p> <p>スポーツチャレンジカードに「休み時間には外や体育館で遊ぶ」と目標を立てた児童が多く、外や体育館で遊ぶ児童の数が増えた。</p>